

インドネシア金融政策（2019年7月）

インドネシア銀行は金融緩和に転換し、約2年ぶりに利下げを実施

2019年7月19日

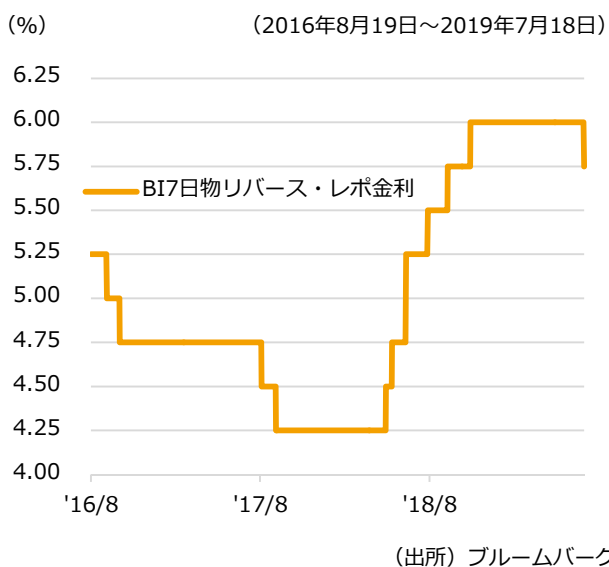
インドネシア銀行は金融緩和サイクルへ

7月18日（現地）、インドネシア銀行（中央銀行）は政策金利であるBI7日物リバース・レポ金利を0.25%ポイント引き下げ、5.75%にしました。また、預金ファシリティ金利を5.00%に、貸出ファシリティ金利を6.50%にそれぞれ0.25%ポイント引き下げました。インドネシア銀行は昨年11月に利上げを実施して以降は政策金利を据え置いてきましたが、今回は金融緩和政策に転換し、約2年ぶりとなる利下げに踏み切りました。

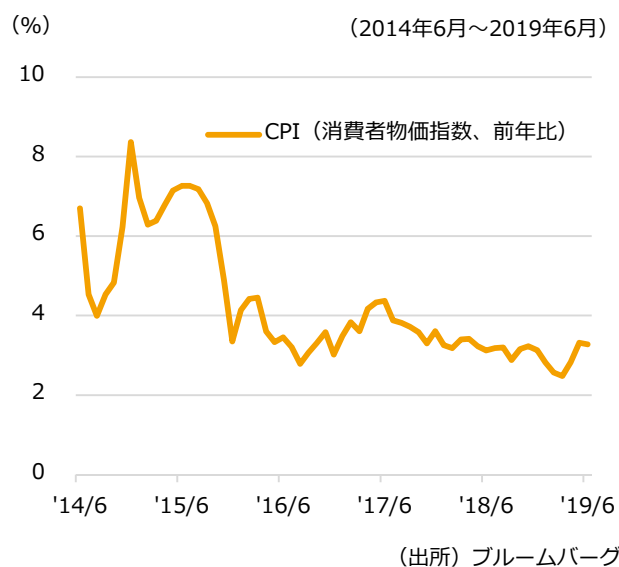
今回の利下げの決定についてインドネシア銀行は、インフレ期待が低位にとどまっていることや、経済成長の勢いに弾みをつけたいことなどに言及しています。米中貿易交渉の不透明感が継続するなど世界的に景気後退懸念が強まる中で、インドネシア銀行は経済成長の下支えを優先するために利下げを実施したと考えられます。また、ペリー・ワルジヨ総裁はさらなる緩和余地に言及し、追加利下げを実施する可能性を示唆しました。

インドネシアについては、今年4月に行われた大統領選挙で現職のジョコ大統領が再選を果たし、政治的安定の継続が見込まれることが同国への資金流入につながると期待されます。また、米国をはじめ主要先進国・地域で金融緩和期待が高まっていることも、相対的に高金利な通貨であるインドネシア・ルピアをサポートすると考えています。今後は、ジョコ政権が腰を据えてさらなる経済成長戦略や構造改革を推し進めていけるかが注目されます。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目録見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。